

経営学部 准教授 宮川 宏

現在はインターネット、SNSなどあらゆるところに情報があふれています。また大学生になれば、自分からも情報を得ることが可能です。大学生には情報を自ら整理して判断することや考えること、アウトプットすることが求められます。大学を卒業したあと社会に出てからもそのようなことの連続です。まずは大学生のときから、情報を収集、整理、自分で思考することができるように、その基礎を身につけることが必要です。そのエッセンスを示しているのが『思考の整理学』です。

私は大学生のときに見つけて、読みました。そのあと、数年してからまた読んでみました。新しい発見もありました。また大学院生になってからも、とあることから懐かしく読みました。その本から得て続けていることは、ノートを持ち歩き、メモや研究の内容を整理したりしていることです。優れた情報端末やアプリが増えて手軽に使える時代であるけれども、ノートを使い、メモや思考を整理することも大事なことと思います。一度読んで、時間がたってからまた読む。数年後、ふと読んでみると新しいことが発見できて参考になる本です。あくまで『思考の整理学』に書かれているのは参考にすることです。その内容を参考に、皆さんのりの整理、思考につなげる方法を見つけてください。

『思考の整理学』
外山滋比古
(1986,筑摩書房)

【所蔵情報】

| | | |
|---------------|------|---------------|
| 生田分館 本館展示中 | 資料ID | 701544488 |
| | 請求記号 | X/080/C44/Toy |
| 靖国分館 | 資料ID | 701713315 |
| | 請求記号 | /141/To79/ |

